

新野中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒を育てるために
①学力向上プリントを利用して、主体的・協働的に学習する力を伸ばす。
②学校と家庭との役割分担による家庭学習習慣を確立する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
西村 正雄 （教務主任）	校長 久保 善信 1年主任 久米 英種 2年主任 中橋 郁代 3年主任 臼木 真知
	教頭 坂部 公章 （研修主任）

校長

久保 善信

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた課題や、与えられた課題に対しては、素直にかつ真面目に取り組もうとする姿勢が見られる。 ●基礎基本の定着における個人差が大きい。また、長文問題や文章問題に対する苦手意識が強い。	・宿題や学力向上プリントを毎日提出することにより、基礎基本の力を着実に身につける。また、その力を使って自らの課題を解決していこうとすることができる。	・各教科において、単元末テストや小テストを効果的に実施する。 ・授業におけるワークシートや視覚教材を工夫し、わかる授業を実施する。 ・タブレットを効果的に活用し、基礎基本の定着を図る。	・自主学習ノートの上手な取り組みを掲示したり、授業の見通しを持たせたりすることで、主体的に取り組む態度を育成する。	・小テストを継続的に実施することで、意欲的に学習に取り組み、高得点をあげる生徒も増えてきた。 ・授業におけるワークシートや視覚教材を工夫することで、授業がわかる生徒が増えた。	・授業のねらいを達成し、基礎基本の力を着実に身につけさせるために、教材教具の工夫やタブレットの活用を今後も行う。 ・基礎的・基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組み、学習に対する興味・関心・意欲を高める取り組みに努める。
児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「わかりたい・理解したい」という意欲はあり、グループ活動等の小集団の中では、少しずつ自分の意見を発表することができる生徒が増えてきている。 ●自分の課題や目的に応じて聞き取ったりまとめたりする力が弱く、自分で考えるより先に教師や正答に頼ろうとし、自分の考えや意見を表現するのが苦手で、言葉や文字を通してのコミュニケーション能力が不十分である。	・TPOに応じた言葉遣いや行動がとれる。 ・根拠や資料をもとに考えを深め、目的に応じて書いたり、発表したりすることができる。	・手本やマニュアルを作成し、発表することに対する抵抗をなくすため、授業だけでなく、意見交換会など様々な場で発表する機会を増やす。 ・授業の中で身近なテーマを取り上げたり、活動的な内容を工夫したりして、積極的に学習に取り組める機会を増やす。 ・思考力を深めるためにICTを効果的に活用する。	・各教科等でプレゼンテーションをする場を設定し、自らの意見を相手に分かりやすく伝える場を増やす。 ・書く力やまとめる力をつけるために、ノートの有効活用の工夫を図る。 ・授業において、話す、聞くなどの言語活動の充実を図る。	・筆答することはできる。しかし、口答することができるのにも関わらず抵抗を感じる生徒がまだまだ多い。 ・ICTを効果的に活用し課題解決に向けて情報収集や整理行い、生徒が協力し自ら工夫し問題を解決する場面が増えた。	・各教科はもちろん、教科以外の場面でも発表の機会を計画的かつ段階的に、また、回数を増やしていくことで、発言できる環境を意図的に設定する。 ・自分たちで考えたり、話し合ったりする機会を多くすることでアクティブラーニングを実現する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中の態度はだいたい良好で、与えられた課題に対しては真面目に取り組むことができる。 ●授業中に答えがわかっている、自ら進んで発表する生徒が少なく、様々なことにおいて受動的な態度が多く見られるため、自ら課題を見つけた、自主的に計画を立てて家庭学習を行ったりする習慣が確立していない。 ●家庭でのゲームやスマホの利用時間が長く、家庭学習の習慣が定着していない生徒が多い。	・苦手な部分や厳しいことから逃げずに根気よく取り組むことができる。 ・目的意識を持って自分のやるべき課題を見つけ、課題解決に向けて意欲的に取り組むことができる。	・様々な感動を与え、生徒の活動や学習に対する目的意識や意欲を高めるため、体験活動や講話などの機械を与える。 ・生徒自らが十分に考える時間を与える。 ・タブレットを活用し、家庭学習の充実を図る。	・キャリア教育を充実させ、将来への展望を確立し、学ぶことの意義を生徒一人一人に実感させる。	・学習意欲については、どの学年もテストが近づくとも目標や計画を立て、進んで勉強している生徒が増えている。しかし、将来を見通した長期的な目標設定の下、学習に取り組んでいる生徒は少ない。	・将来の職業や生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解させ、自己の生き方を考えさせる。 ・キャリア教育の充実を図り、将来に展望を持たせ、どのように学習を進めればよいかを考えさせる。

令和4年度 学力向上ロードマップ

